

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	7 国際交流(研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 英語のみによる学位コースの設置により一層の国際化を図る。	→留学生数。	D	B	B	A	A
2. 教育研究の国際交流を緊密化する。	→国際会議、シンポジウムへの参加者数。	B	B	B	A	A
3. 国際人として相互理解を育む機会を拡大する。	→教員及び大学院生の海外派遣者数・海外からの研究員の受入数。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 物理学専攻・化学専攻・生命科学専攻において、英語のみによる修士コースである国際修士プログラムを設置し、2012年度の設置後はコースの教育と運営の充実に取り組んだ。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年9月の国際修士プログラム設置後、合計12名の外国人学生を受け入れており、定員を充足している。また、本プログラムにおいて、コースの教育・運営を充実させるため、2名の助教を雇用した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本目標は2012年度において達成したが、今後も国際修士プログラムを維持・充実させることにより、国際化を進めていきたい。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>研究科として、教員や大学院生に国際的なシンポジウムへの積極的な参加を促した。また、吉林大学生命科学院との間で結んだ生命分野における教育・研究連携を強化する協定をベースにして、国際的なフォーラムの開催や教員の受け入れ・派遣に取り組んだ。また後期課程海外研究助成金の応募を積極的に推奨した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>2013年度の大学院生の国際会議での研究発表件数は137件であり、順調に増加している。また、吉林大学生命科学院とは、これまでに第5回日中経済社会発展フォーラムを共同開催し、また2012年度より教員の受け入れや派遣を各1名ずつ行うなどで連携を深めている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か</p> <p>2012年度以降、本目標は達成しているものと考えられるが、今後もこの水準を維持できるよう、上に述べた取り組みを継続・強化していく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか</p> <p>理工学研究科として、各専攻に対し海外からの研究者の受け入れ及び教員の海外への派遣を積極的に行うよう促し、海外客員教員招聘制度や学院長期留学、ランパス留学基金などの制度について情報の収集と提供を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>2013年度の外国人教員、研究員の受入数は、客員教員6名、客員研究員1名、受託研究員3名、博士研究員7名であり、全体的に例年以上の水準となった。また、海外への派遣教員数は国際学会等での研究発表89件を含めて延べ115件と、ほぼ例年並みの水準を維持している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か</p> <p>今後、さらに教育研究の国際交流の緊密化・活性化を図り、外国人教員・研究員の受け入れ数、海外への派遣教員数を増加させるよう各学科に促すほか、本目的に利用可能な制度や基金についてのさらなる情報収集・提供を行っていく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【理工学研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	8	10	12	18	22	21	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	1	0	0	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	2.9	3.6	3.9	5.5	6.5	6.7	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)